

第8回静岡国際オペラコンクールが、11月11日から19日までの9日間にわたり、アクトシティ浜松大ホールで開催されます。

いよいよコンクールが近づいてきました。出演者も、わくわくする気持ちと、無事に歌えるか心配な気持ちとが、入り混じっていると思います。ちょうど皆さんが、文化祭や学習発表会、合唱コンクールなどの前に感じる気持ちと同じなのではないでしょうか。

コンクールを支える

コンクールは、参加者と主催者だけでは成立しません。いろいろな人の協力で、コンクールは成り立っています。一番の協力者はボランティアの皆さんではないでしょうか。オペラコンクールには、語学力や経験を活かし、参加者の受付、練習の案内、アテンドなど多く場面で出場者をきめ細かくサポートするボランティアの方がいます。今回のコンクールのボランティアは、浜松通訳ボランティアガイドの会「HELP」を中心に一般の方や静岡文化芸術大学の学生約70名で成り立っています。御来場の皆さんの目に触れるボランティアとしては、入場の時のチケットもぎり、ドア係などがあります。気持ちよく演奏を聴いてもらえるよう、おもてなしの心で接してくれるでしょう。写真で少しだけ、第7回コンクールでお手伝い下さったボランティアさんの活躍の様子で、皆さんの目に触れにくい部分を紹介します。



(参加者の受付の様子
英語・中国語・韓国語などでお出迎えます)



(これから本番。ステージまでアテンドします。)



オペラ豆知識 その「高い声、低い声」

皆さんは、声を聞いてその人がどんな性格や人柄か想像できますか？オペラの場合、声の種類で、その役の性格がだいたい決まります。合唱の声の分類は、「ソプラノ」「アルト」「テノール」「バス」ですが、オペラの場合もう少し複雑で、ソプラノとアルトの間に「メソソプラノ」、テノールとバスの間に「バリトン」があります。

高い声は若く、低い声は年寄りの役が多いです。ソプラノとテノールが若いカップルになり、それを邪魔するのがバリトンかメソソプラノです。メソソプラノは、男装して少年の役を演じることもあります。まさに宝塚！アルトは魔法使い、バスは神父や悪魔など、超人的な役が多いです。ただし、ソプラノやテノールといってもその中がさらに分類されているので、全て当てはまるとは限りませんが、大いに参考にはなると思います。皆さんも調べてみて下さいね。